

## NHK スペシャル

### 「大返済時代～借金 200 兆円 始まった住民負担」

上記は4月21日放映の番組タイトルである。番組サイトは次のように紹介している。

「NHK は全国 1800 市区町村への調査を実施。公共料金の値上げなどで新たな住民負担を強いる自治体が 56%にのぼることが判明した。番組では各地の現状を緊急取材。母子家庭やお年寄りの世帯などが深刻な状態に陥っている現状や、住み慣れた町を捨てる決断までした人の姿を描くほか、借金の正体にも迫る。自治体の借金を住民が返す『大返済時代』。それが今、始まっている。」

番組で取り上げられた深刻な事例を紹介していこう。奈良県平群町では土地開発公社の赤字のため厳しい「財政再建」策が提案され、固定資産税引き上げや福祉年金カットが実施された。母子家庭で障害をもつ子の母親が、不安げな表情で語っている姿が印象に残る。

熊本県長洲町では下水道事業の赤字により、町民税増税などの住民負担が新たに提案され、町民から反発の声が上がる。1兆円の借金を抱える島根県は医療費を大幅に引き上げた。サイト (<http://www.nhk.or.jp/special/onair/080421.htm>) に掲載されている写真のように、寝たきりの夫を看病する女性は途方にくれ、住み慣れた町をあとにして隣の鳥取県に移る。そこでも医療費の引き上げが待っている。



地方自治体の借金 200 兆円と「大返済時代」の背景は、バブル崩壊後の景気対策と国の「借金のすすめ」、小泉構造改革による「三位一体改革」、そして昨年成立した「地方財政健全化法」などだ。

「夕張ショック」を受け制定された財政健全化法は、下水道や病院など公営事業の借金を表面化させ、自治体の財政危機・「リストラ」に拍車をかけ、それが住民負担をますます強めている。結局は住民への「つけ回し」である。厳しい現実を描く番組を見て、あらためて「政治の劣化」と「格差・不安社会」を痛感した。

(2008年4月29日 記)